

新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）を活用した事業の令和7年度実績及び効果検証

1. 「国際経済都市・仙台」の実現に向けたスタートアップ創出加速化事業【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 58,500,000円 交付決定額 : 29,250,000円	担当課	経済局 スタートアップ支援課
事業概要	高専生、高校生を対象に、AIの分野でグローバルに活躍するスタートアップ経営者による講演やAIスキル習得のためのプログラムを実施する。また、起業やスタートアップへの就職（インターン含む）に関心がある在仙外国人（留学生含む）向けに起業・就職をテーマにした講演会や交流会等を開催する。併せ、スタートアップの経営経験等を有する人材を国内外から募集・採択し、起業意欲の高い研究者とのマッチングを図り、大学等の技術シーズを活用した新規事業の立ち上げを支援する。				
R7の 主な取組	起業やIT・AIの魅力を伝える講演や、基礎的理解と実践的活用を目的とした演習・ワークショップ、成果発表会を実施するとともに、主に外国人・留学生を対象としたイベントの開催やスタートアップビザ制度を活用した外国人起業家の受入れを通じて、多様な人材交流・活躍を促進した。また、東北大学等を中心に事業化可能性の高い技術シーズの発掘を進め、経営人材とのマッチングや伴走支援により事業化を後押しした。				

KPI		R7増加分	R8増加分	R9増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	(参考) 事業開始前
① 地域における起業家数(準備中含む)	目標値	3	5	10	18	件	○	－
	実績値	6			6			
② 次世代起業家等育成支援プログラム参加者数	目標値	40	40	50	130	人	×	－
	実績値	36			36			
③ 外国人や留学生からの起業相談件数	目標値	20	20	20	60	件	○	10
	実績値	20			20			
④ 在留資格(起業・就職)に係る相談対応件数	目標値	－	20	30	50	件	－	9
	実績値	－						
⑤ 在仙外国人のコミュニティ参加者数	目標値	100	300	500	900	人	○	－
	実績値	268			268			

■ 効果検証

事業評価	AIに関する知識習得や実践的な活用手法への理解を促進するとともに、地域企業・技術者・学生の交流による人材育成基盤の形成に寄与した。また、起業に関心を持つ外国人・留学生の潜在層を発掘し、必要な支援へつなげることができた。さらに、受け入れスタートアップの事業推進や経営課題の解決を支援するとともに、EIR人材の実践的な経験の獲得と能力向上にもつながった。なお、東北地方及び新潟県の産学官金その他約190団体で構成される仙台・東北スタートアップ・エコシステム・コンソーシアムにおいて、毎年度、KPIの達成度を踏まえて今後の方向性を検証している。
今後の 方向性	参加者の知識や技術レベルに応じたフォローアップを行いながら、引き続きAI人材の育成に取り組む。また、起業に加え、仙台・東北のスタートアップへの就職やインターンシップに関心を持つ留学生も対象に含め、在仙外国人コミュニティのさらなる形成を図る。さらに、東北の大学等における有望な技術シーズの発掘を進めるとともに、研究者や経営候補人材、起業関心層の学生とのマッチングを通じて事業化支援を推進する。

2. 農業経営ロールモデル構築事業【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 15,721,000円 交付決定額 : 7,860,000円	担当課	経済局 農業振興課
事業概要	生産環境が大きく異なる本市東部と西部の各地域において、生産性や効率性を高めるための輪作体系の構築に係るモデル実証を行う。また、実証に併せて、集落営農組織の組織力向上に向け、経営方針や事業継承、雇用環境整備等の経営改善につながる様々な伴走支援を行い、組織が安定経営できる基盤づくりを推進する。				
R7の 主な取組	東部地域1か所、西部地域2か所の計3か所のモデル農地において、スマート農業技術や環境負荷低減技術を用いた各種実証を実施したほか、実証内容の普及等を目的とした現地見学会や体験会、研修会を開催した。 また、アグリ経営アドバイザーにおいては、集落営農組織3経営体の支援を実施し、それぞれ円滑な経営継承・世代交代、法人化に向けた取組、雇用環境整備に係る伴走支援を実施した。				

KPI		R7増加分	R8増加分	R9増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	(参考) 事業開始前
① 地域における農業出荷額	目標値	45	60	92	197	百万円	○	2,703
	実績値	2,105						
② 実証を行う農業経営体のうち付加価値額(収入総額－費用総額＋人件費)を拡大する経営体数	目標値	0	1	2	3	件	—	—
	実績値	0						
③ モデルケースとして実用化に至る輪作体系件数	目標値	1	1	1	3	件	○	—
	実績値	2						
④ 有効なモデルケースに取り組むためにスマート農業機械を導入する農業経営体数	目標値	0	2	7	9	件	○	—
	実績値	4						

■ 効果検証

事業評価	KPI①については、令和6年からの米価高騰により農業出荷額が多くなったことから目標値を大幅に上回る達成となった。KPI②については、令和7年度の事業実施の結果、令和8年度から付加価値額を増やす経営体が輩出される見込みであることから、目標・実績ともに0としている。KPI③、④については、モデルケースの実証結果を他組織に紹介し、スマート農業機械を導入する農業経営体が増えていることから、着実に進捗している。この流れを継続させるため、産学官金連携のプロジェクトチーム内で協議し、令和8年度も各モデル農地毎に実証計画を策定している。
今後の 方向性	引き続き市内の複数のモデル農地において各種実証を行うほか、令和8年度からは新たに、水稲と園芸作物の輪作についても、スマート農業機械や新たな技術、資材等の導入による作業効率および生産性向上に係る実証に取り組む。 地域農業を持続可能なものにしていくためには、外部人材の雇用による後継者の確保と継承のための法人化が必要となることから、令和8年度から実践的な人材雇用を行うお試し就農事業をアグリ経営アドバイザーと併せて実施し、経営体制の強化を推進していく。

3. 産学官連携で取り組むデータインフォームド型のビジネス変革推進事業【2年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和6～8年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 52,460,000円 交付決定額 : 26,230,000円	担当課	経済局 イノベーション企画課
事業概要	地域企業の高付加価値型ビジネスへの変革を支援するため、経営層に向け、組織文化の改革支援も含めた、データとデジタル技術の活用に関する講座やワークショップを開催するほか、異業種ネットワーク構築支援等を行う。また、データを活用した新規事業開発・既存事業高度化を担う人材の育成や変革プロセスの伴走支援に加え、各種実証実験や検証の場の提供に関する支援等を行い、モデルケースの創出や横展開を図る。				
R7の 主な取組	AI・データを活用したビジネス創出事業(Project Based Learning、ビジネス創出プログラム、メンタリングプログラム)、先端デジタル技術ユースケース創出支援を実施した。また、高度IT人材育成のため、AI・データ利活用をテーマとした関連教育プログラム、ビジネス開発促進セミナーを実施した。				

KPI		R6増加分	R7増加分	R8増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	(参考) 事業開始前
① 地域における新規雇用者数	目標値	30	35	40	105	人	○	-
	実績値	52	54		106			
② 本事業を通じたデータ利活用によるビジネス創出数	目標値	25	30	35	90	件	○	-
	実績値	26	46		72			
③ 本事業を通じて創出・育成されたデータ利活用人材人数	目標値	200	220	240	660	人	×	-
	実績値	264	175		439			
④ 本事業を通じたモデルケース創出に向けた実証実験数	目標値	3	4	4	11	件	○	-
	実績値	3	4		7			

■ 効果検証

事業評価	KPI①②④については達成した。本事業が2年目に入り、地域に浸透し効果が出ているものと評価している。③については、今年度のKPIは下回ったものの、昨年度に前倒しで育成した人数が多く、R6,7の累計ではKPIを上回る数値となった。また、人材育成プログラムの参加者が2年目にビジネス創出事業に取り組むなど、継続的な参画と効果的な事業創出につながるケースも出ている。
今後の方向性	協議の内容をふまえ、効果的な広報や事業のメリット訴求を行っていく。

4. Web3.0時代の地域と「仙台アルムナイ」との持続的なコミュニティ形成による新たな価値創出事業【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 10,000,000円 交付決定額 : 5,000,000円	担当課	まちづくり政策局 プロジェクト推進課
事業概要	本市を含む地域一体的なコミュニティとして「仙台アルムナイ」(仙台市に居住経験があるなど、一定の要件を満たす域外在住者)との持続的な関係性を可視化しながら構築し、仙台をフィールドとした多様な主体による価値創造の取組みの中でそのポテンシャルを最大限活用することができる環境を構築することにより、人口減少局面にあってなお持続的発展が可能な新たな地方創生モデルの実現を図る。				
R7の 主な取組	本市地域と「仙台アルムナイ」との関係性可視化に向け、「仙台アルムナイ」の人数規模や分布、及び連携の有用性や参画意向等について、企業・大学等へのアンケート調査及びヒアリングを行った。				

KPI		R7増加分	R8増加分	R9増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	(参考) 事業開始前
① 地域交流人口数	目標値	0	70	140	210	人	○	-
	実績値	0			0			
② 地域と「仙台アルムナイ」との交流機会	目標値	0	2	10	12	件	○	-
	実績値	0			0			
③ プラットフォームの活用・連携を通じた新たなプロジェクトやサービス(プロトタイプを含む)の件数	目標値	0	1	5	6	件	○	-
	実績値	0			0			

■ 効果検証

事業評価	調査の結果「仙台アルムナイ」は直近10年で約17万人規模で存在することが判明したほか、仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会に参画する企業へのヒアリング等から、「仙台アルムナイ」が関係構築コストが比較的低く、内発的動機による関与が期待できる層であるとの示唆を得た。R7は仙台アルムナイのポテンシャル等を明らかにすることが目的であり、定量的な指標としてのKPIは設定していないが、仮説にとどまっていた仙台アルムナイの可能性を明らかにすることができた。
今後の 方向性	令和8年度以降は、「仙台アルムナイ」の属性、関与意向に関する詳細な調査のほか、実際に「仙台アルムナイ」と接点を持ち、「仙台アルムナイ」が参加し経済活動や地域活動に取り組む実証プロジェクトを実施し、これにより各種施策に対する展開の可能性や、「仙台アルムナイ」の活用について模索していく。

5. ライフステージの転機を捉えたUIJターン促進事業【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 22,750,000円 交付決定額 : 11,375,000円	担当課	経済局 商業・人材支援課
事業概要	動画メディアを立ち上げ、仙台の仕事や暮らしについての情報発信を行うほか、オンラインと首都圏でのリアルイベントを織り交ぜながら開催することで、SNS等での母集団の形成を図り、首都圏に点在しているUIJターン関心層及びUIJターン転職希望者を顕在化させる。また、新たにUIJターンウエルカム企業の見える化及びUIJターン転職希望者と地域企業のオンライン面談を実施する。				
R7の 主な取組	7月に動画メディアCROSS SENDAIを立ち上げ(動画制作数:49本)、同時にInstagram、X、Facebook、TikTok、noteを開設し、運用を開始した。UIJターン人材を対象にしたイベントは6月からオンライン・リアル(in渋谷)イベントを交互に開催した(計8回)。イベントの申し込みを公式LINEに統一したこともあり、公式LINEの登録者数は初年度で630名まで増加した。				

KPI		R7増加分	R8増加分	R9増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	(参考) 事業開始前
① 宮城県移住支援事業に係る移住支援金を交付した者のうち本事業を契機に移住した者の件数	目標値	5	8	14	27	人	×	—
	実績値	2						
② 本事業にて運営するSNSアカウントの登録者数	目標値	900	900	900	2,700	人	○	—
	実績値	2,587						
③ 本事業で開催するイベントの延べ参加者数	目標値	80	120	120	320	人	○	—
	実績値	245						

■ 効果検証

事業評価	「仙台で働くこと」、「仙台で暮らすこと」、「仙台で豊かな生活を送ること」を具体的にイメージできるよう動画コンテンツをベースに情報発信を行い、ターゲットへの訴求を図った。情報発信に加えて、オンライン・リアルイベントを定期的に開催することで当初の想定よりも多くの方に関心を持っていただいたと感じている。なお、地域企業の経営者・役員、実際に仙台にUIJターンした方、東北最大規模の私立大学等と連携のうえ事業を推進しており、事業の進捗状況等を共有しながら、効果的な施策展開を検討する予定である。
今後の方向性	初年度からの事業方針は踏襲しつつ、当該事業のターゲットを潜在層・準顕在層・顕在層・意思決定層の4つのフェーズに細分化し、各フェーズに合わせたコンテンツを提供することで、各層のターゲットを上位層へ押し上げるとともに、母集団の形成を加速させていく。

6. 地域と連携した地方への国内・国外誘客促進事業【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 621,955,000円 交付決定額 : 310,977,000円	担当課	文化観光局 観光戦略課
事業概要	国内外に向けた認知向上と誘客促進を図るため、「せんだい旅日和」の機能拡充や多言語Web・SNSの改善を進め、認知から予約・来訪までの観光動線を整備する。事業の核となる秋保大滝周辺エリアでは、滝見台と植物園との一体的整備を進め、世界水準の眺望体験や滞在価値の向上を実現し、温泉街や二次交通整備等と連動した回遊を促進する。また、青葉山エリアや海浜エリア等の地域資源を活かした取組により、多様化する国内外の観光ニーズに対応した観光資源の形成に取り組み、国内及び国外からの持続可能な誘客を実現する。				
R7の 主な取組	・国内向け、国外向け、また国内外共通向け、それぞれにおける観光プロモーション事業の実施。 ・青葉山エリアや海浜エリア、西部エリア等における地域資源を生かした事業の実施。漫画・アニメコンテンツを活用した誘客促進事業等の実施。 ・まつり開催支援や宿泊事業者支援など、持続可能な事業運営に資する事業者支援の実施。 ・地域と連携した多様なニーズに対応する観光資源「秋保大滝滝見台」の整備に向けた設計事業の実施。				

KPI		R7増加分	R8増加分	R9増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	(参考) 事業開始前
① 市内観光消費額	目標値	26,440	26,440	25,973	78,853	百万円	×	330,978
	実績値	15,764			15,764			
② 東北6県における延べ観光客入込数	目標値	12,125	12,731	13,367	38,223	千人		242,493
	実績値	※						
③ 仙台観光情報サイトアクセス数	目標値	299,518	307,004	314,714	921,236	PV	×	8,767,296
	実績値	187,914			187,914			
④ 海浜エリアに3時間以上滞在する人の割合	目標値	5	5	5	15	%	×	45
	実績値	-1.6			-1.6			
⑤ 秋保地区における年間宿泊者数	目標値	-	70,450	62,495	132,945	人泊	-	785,666
	実績値	-			-			
⑥ 秋保大滝周辺エリア年間来訪者数の前年比増 加率	目標値	-	0	30	50	%	-	100
	実績値	-			※R7～R11の増加分			

■ 効果検証

※各県の観光統計資料が出そろうのがR9.1月頃になるため、現時点では把握できていないもの。

事業評価	KPIは総じて目標達成とはならなかったが、観光需要は回復基調にあり、宿泊者数や観光客数は増加傾向にある。KPI①は一人当たり旅行消費額の伸び悩み、KPI③は検索エンジン仕様変更等やAI概要表示普及によるサイト流入減少、KPI④は、コロナ禍のアウトドアブームが終息し、屋外施設等に長時間滞在する人数が減少したことが未達成要因と考えられる。今後の課題等について、各種会議(観光戦略推進検討会議、宿泊事業者連携会議等)での意見交換や、海浜エリア関係団体へのヒアリングでは、二次交通の利便性向上や周知強化、観光コンテンツの充実、安全・安心な受入環境整備の必要性等について意見が出された。
今後の 方向性	会議等での意見を踏まえ、観光コンテンツの磨き上げと情報発信を進めるとともに、二次交通の利便性向上や周知強化、受入環境の整備を推進する。また、仙台観光情報サイトを活用した観光DXにより周遊促進と地域消費の拡大を図り、関係団体と連携しながら持続的な誘客に取り組む。

7. 大阪・関西万博を契機とした地域連携による外国人旅行者の新規開拓プロジェクト【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 24,773,000円 交付決定額 : 12,386,000円	担当課	文化観光局 東北連携推進課
事業概要	仙台市、青森市、秋田市、盛岡市、山形市、福島市の広域連携事業。インバウンド旅行者向けに旅マエ・旅ナカ双方でのプロモーションを行うことで、祭りのみに限らない、多彩な東北の魅力を発信する。具体的にはウェブサイトを活用した情報発信、バーチャル技術を活用した観光素材によるプロモーション、観光物産プロモーションの3つを軸に事業を実施する。				
R7の 主な取組	多言語対応ウェブサイトの構築・活用を通じた情報発信、バーチャル技術を活用した観光素材によるプロモーション、観光物産プロモーションの3つを軸に事業を実施する。本事業を通じ、インバウンド旅行者向けに旅マエ・旅ナカ双方でのプロモーションを行うことで、祭りのみに限らない、多彩な東北の魅力を発信する。				

KPI		R7増加分	R8増加分	R9増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	(参考) 事業開始前
① 東北六県観光消費額	目標値	58,960	58,960	57,919	175,839	百万円		1402,715
	実績値	※						
② インバウンド向けプロモーション接触者数	目標値	240,000	40,000	40,000	320,000	人	×	-
	実績値	155,500			155,500			
③ インバウンド向けプロモーション実施回数	目標値	2	1	0	3	回	○	-
	実績値	3			3			
④ WEBサイトPV数	目標値	7,576	9,848	10,341	27,765	人	×	189,400
	実績値	-53,284			-53,284			

■ 効果検証

※各県の観光統計資料が出そろうのがR9.1月頃になるため、現時点では把握できていないもの。

事業評価	KPI①については、東北六県の観光消費額が公表されていないことから現在未定。KPI②については、令和7年度は首都圏・関西圏でプロモーションを実施したが、目標値を下回った要因として、委託事業者からの事業報告書によると、1日目は、天候に恵まれず、パレードの実施を取りやめてステージのみの演舞に急遽変更したこと等によるものと考えられる。KPI③については、東北絆まつり的大阪・関西万博でのプロモーション、なかの東北絆まつり、SAKURAFESNIHONBASHIの計3回実施を行い、目標を達成した。プロモーション実施回数や、その他のKPIについても6市で共有している。KPI④については、過年度実施していたデジタルスタンプラリーの終了に加え、インバウンド向けに発信対象を変更したことや、AI要約の浸透により目標値を下回った。訪日外国人向け多言語Webメディアの運営等を行う企業の担当者によると、外国人はAIを使用して日本の観光情報を収集することが多く、AIに拾ってもらいやすい情報発信が必要であることから、PV数増加に向けてもこうした視点がより一層必要である。
今後の 方向性	これまで構築したWEBメディア及びプロモーションの内容を分析の上、国外のターゲット都市を選定し、来訪計測付きのWEB広告を含めた広報を実施すると共に、年間を通じた誘客のため季節ごとのインバウンド向け観光情報の集約・紹介を行う。また、観光物産プロモーションにより、旅マエの層に対して旅行目的地としての東北の周知広報を実施すると共に、長期滞在者など旅ナカの層に対して国内主要都市におけるプロモーションを実施することで東北への来訪を促す。特に2027年3月より横浜市にて開催される国際園芸博覧会に出展し、東北の県庁所在地6市が一体となったインバウンド向け観光プロモーションを行うことで、東北全体の認知度向上、誘客促進に資することを目指す。

8. 仙台・東北連携による域内循環及び交流人口拡大戦略再構築事業【3年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和5～7年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 55,000,000円 交付決定額 : 27,500,000円	担当課	文化観光局 東北連携推進課
事業概要	仙台・東北の交流人口拡大を軸とした地域の持続可能性確保に向け、東北の自治体等との連携体制を再構築するとともに、仙台を起点とした東北域内循環の促進による地域経済の活力の還流と、広域連携での域外誘客の強化に取り組む。				
R7の 主な取組	仙台発東北各地の観光モデルコースを設定し、WebやSNSを活用したプロモーションを実施したほか、仙台市内中心部商店街を活用した東北の魅力発信に取り組むなど、継続した情報発信・プロモーションに取り組んだ。				

KPI		R5増加分	R6増加分	R7増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	計画期間 通期の 目標達成	(参考) 事業開始前
① オウンドメディア等のPV数	目標値	30,000	50,000	50,000	130,000	PV	○	○	-
	実績値	144,476	214,291	427,701	786,468				
② 東北の魅力発信拠点等の累計利用者数	目標値	58,566	60,455	62,345	181,366	人	○	○	56,677
	実績値	83,963	131,862	65,083	280,908				
③ 本市と連携する東北の自治体数	目標値	10	30	30	70	自治体	○	○	-
	実績値	29	39	37	105				

■ 効果検証

事業評価	KPI①については、仙台都市圏に焦点を当てた情報発信に加え、インフルエンサーを活用した仙台を拠点とする日帰り観光促進に係るコンテンツ発信を継続的に実施したことにより、PV数が大幅に増加し、目標を上回る成果につながった。 KPI②については、東北の魅力発信拠点が市役所建替えに伴い令和6年度中に営業を終了したことから、同拠点を活用した発信は実施できなくなったものの、商店街等を活用した情報発信を行うことで、継続的な魅力発信に取り組んだ。なお、全3回の実施のうち1回はデータ欠損により計測できなかったため、来場者数は2回分の実績により算出している。 KPI③については、引き続き東北の自治体と連携した事業を実施したことにより、目標を上回る成果を達成することができた。
今後の 方向性	本交付金事業を通じて、仙台を拠点とした東北各地の魅力発信や、自治体間連携による広域的な誘客促進の取組を継続的に実施した結果、設定したKPIはいずれも目標値を達成することができた。今後は、本事業で得られた発信手法や連携体制を活用しながら、東北地方のさらなる認知度向上及び宿泊・周遊促進につなげていく必要があるため、継続した発信に取り組む。

9. 産学官金民連携による地震火災防止イノベーション創出促進事業【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象事業費	総事業費：84,750,000円 交付決定額：42,375,000円	担当課	危機管理局 減災推進課
事業概要	「長町-利府線断層帯地震等により想定される災害リスク及び損失を大幅に削減するため、産学官金民連携組織(コンソーシアム)による「地震火災防止イノベーション・エコシステム」を形成し、仙台防災枠組の優先行動に資するソリューションの創出及び連携と、感震ブレイカー設置費用支援や地震火災防止に係る行動変容の定着を図る。併せて、産学官金民連携組織(コンソーシアム)による「地震火災防止イノベーション・プラットフォーム」をWEB上に構築し、全てのステークホルダーが地震火災防止に係る行動変容を主体的に推進する。更には、取組実績を検証しながら、本事業を次世代の社会課題解決モデルとして、全国への展開を図る。				
R7の主な取組	・地震火災防止エコシステムの形成を目指す産学官金民連携組織「Xross Innovation BOSAIコンソーシアム」(全11事業者)の設立(8月) ・新たなコンソーシアム参画事業者発掘のための交流イベント(2回)、地震火災防止に資する事業開発プログラム(1回)の開催 ・宮城県第五次地震被害想定調査において大規模火災が想定される地域(約6万5千世帯)を対象に感震ブレイカー設置促進支援を実施 等				

KPI		R7増加分	R8増加分	R9増加分	累計(増加分)	単位	R7目標達成	(参考) 事業開始前	
①	感震ブレイカー設置対象地域(長町-利府線断層帯地震等及びスラブ内地震での250mメッシュ焼失棟数50棟以上)において削減する死者・重傷者数	目標値	85	85	85	255	人		-
		実績値	※						
②	感震ブレイカー設置対象地域(長町-利府線断層帯地震等及びスラブ内地震での250mメッシュ焼失棟数50棟以上)において削減する焼失棟数	目標値	1,580	1,580	1,580	4,740	棟		-
		実績値	※						
③	仙台防災枠組「優先行動」別の産学官金民連携による地震火災防止イノベーション事業創出件数	目標値	10	15	20	45	件	○	-
		実績値	17			17			
④	仙台防災枠組「優先行動1から4まで」が連環した本数	目標値	5	8	10	23	本	×	-
		実績値	0			0			

※KPIの算定要素となる調査を令和9年度末に実施することから、現時点では把握できていないもの。

■ 効果検証

事業評価	KPI③については、防災キャンペーン「仙台防災WEEK」、UNDRR & ARISE Japan共同シンポジウムにおける取組事例発表(いずれも令和8年3月)等を実施し、目標を達成した。KPI④については、仙台防災枠組に基づく優先行動1～3が連環する取組みを複数実施したものの、優先行動4(発災時における防災訓練等)の取組の実施に至らなかったため、未達成となった。KPIの達成状況や課題等については、コンソーシアムにて意見交換を行い、各参画事業者による予算確保等の課題が共有された。
今後の方向性	参画事業者が拡大する中で、やる気のある新規事業者が埋もれずに動きやすくなるような仕組み作りや、更なるコンソーシアムの発展に向けて、狙いを定め成果創出に繋がる事業者を特に誘致する取り組みを進める。

10. Full Digital SENDAI推進事業【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 45,000,000円 交付決定額 : 22,500,000円	担当課	まちづくり政策局 プロジェクト推進課
事業概要	デジタル化の進展で働く場所を問わなくなった時代に、居住地として仙台市を選択してもらうため、デジタルとリアルを融合した事業を通し、生活に不可欠なサービスや自分のライフスタイルに合ったサービスが簡単に受けられる都市Full Digital SENDAIを実現する。ひいては、仙台市としての住みやすさを向上させ、人口減少の抑制を目指す。				
R7の 主な取組	・SSO機能実証・実装 ・生活に不可欠なサービス等のデータ連携・機能追加に係る設計 ・周遊促進の施策・機能の検討				

KPI		R7増加分	R8増加分	R9増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	(参考) 事業開始前
① 仙台市における人口減少数	目標値	189	189	189	567	人	×	1,064,142
	実績値	944						
② 「仙台市が住みやすい理由」の「通勤・通学・買い物など生活が便利」の回答割合	目標値	0.63	0.63	0.63	1.89	%	○	56.1
	実績値	3.8						
③ SSOするサービスの実装件数	目標値	2	2	2	6	件	○	—
	実績値	3						

■ 効果検証

事業評価	共通UIに関して、SSOサービスの実装等により、利用者数が増加しており、KPI②及び③の目標達成につながった。一方で、利用者数が人口に対して2%であることから、さらに利用者数を増やしていくことで、KPI①の達成に近づくものと評価している。また、協議会に参画している事業者等の知見や技術を活用した産官学連携により、サービスの改良や創出を行いながら、効果や課題について検証を行い、今後の取組の方向性を検討した。
今後の 方向性	令和8年度は、利用者のニーズが高いサービスの実証・実装し、利用者を増加させるだけでなく、集まった情報を活用して利用者のライフスタイルに合わせた情報・サービスの提供を目指す。

11. 仙台市スマートシティ推進事業【4年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和4～8年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 98,150,000円 交付決定額 : 49,075,000円	担当課	まちづくり政策局 まちのデジタル推進課、プ ロジェクト推進課、ダイバーシティ推進課
事業概要	まちづくりにおいてデジタル技術をより効果的に活用していくため、スマートシティの枠組みの導入を進める。スーパーシティ構想をはじめとし、地域の強みや課題に応じた各エリアの取り組みを有機的につなげるにより、スマートシティを実現し、その取り組みを市内や東北地方に横展開することを目指す。				
R7の 主な取組	データ連携基盤を活用する「DATA SENDAIプラットフォーム」では新たに26団体が参画し、研修プログラムやユースケース創出支援を通じてデータ活用によるサービス創出を推進した。また、仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会分科会の拡充や約80社の参画による産官学連携のもと、ユースケース創出に向けた検討を進めるとともに、民間提案によるサービス開発・実証やオンライン診療カーの機能強化・広域展開に向けた実証を実施した。さらに、海外研究者・留学生の受入環境整備やジェンダード・イノベーション推進に資するプロジェクトを採択し、生成AIを活用した行政窓口支援システムやセルフケアアプリの実証実験を行った。				

KPI		R4増加分	R5増加分	R6増加分	R7増加分	R8増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	(参考) 事業開始前
① データを活用したサービスの実証実験および実装件数	目標値	3	6	8	8	8	33	件	×	-
	実績値	3	6	8	7		24			
② 本事業により創出したサービス登録者数	目標値	200	250	700	1200	1300	3,650	人	×	-
	実績値	335	1,056	258	441		2,090			
③ 市民ポータル(仮)の利用者数	目標値	-	-	1,300	1,500	1,500	4,300	人	○	-
	実績値	-	88	3,278	9,556		12,922			
④ オンライン診療カーを利用した患者数	目標値	-	18	210	450	500	1,178	人	×	-
	実績値	-	5	19	40		64			

■ 効果検証

事業評価	データ連携基盤を活用したユースケース創出や市民ポータル、自動運転バス実証事業との連携により、データ利活用の取組が着実に進展した。また、多様な主体の参画によってサービス創出に向けた議論や検討が深化し、各種サービスの開発・実証を通じて有効性の検証や課題整理が進んだほか、オンライン診療カーの機能向上による利便性の改善も図られた。さらに、民間事業者の知見や技術を活用した産官学連携により、ダイバーシティまちづくりに資する製品・サービスの改良や創出につながった。加えて、協議会において地域の多様な主体が参画し、各事業の取組状況や目標達成に向けた進捗を共有しながら、効果や課題について検証を行い、今後の取組の方向性を検討した。
今後の 方向性	データ連携基盤のさらなる活用に向けて、リアルタイムデータや地理空間情報との連携拡充を検討するとともに、多様な主体との連携を継続しながら実装につながるユースケース創出を推進する。また、実証事業の成果を踏まえたサービスの社会実装や横展開を進めるほか、オンライン診療カーの持続的な運用に向けた検討を行う。さらに、ジェンダード・イノベーションの推進やダイバーシティまちづくりに資するプロジェクトの創出・事業化支援を通じて、産官学連携による地域課題解決を進めていく。

12. 南部拠点・長町「賑わいの交流拠点」形成促進事業【3年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和5～7年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 110,000,000円 交付決定額 : 55,000,000円	担当課	太白区 長町地域活性化推進室
事業概要	本市の南部拠点地域(長町地区)において、日常的に賑わいや交流が生まれる「歩いて楽しい街並み」の形成を目指し、歩行空間や空き店舗の活用 の検討を行うなど、まちの将来ビジョンの作成に向けた取り組みを地域との協働により進めるとともに、官民連携の推進会議立ち上げを図る。				
R7の 主な取組	官民連携推進会議(長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会)において、ワーキンググループ(分科会)を計4回、検討会(親会)を4回開催し、基本 計画の検討を行った。また、道路や公園を利活用した社会実験を38日間実施し、交通量・人流等の調査・分析やアンケート等による地域意見の把 握を行うとともに、道路再整備に向けた将来予測のための広域交通シミュレーションを実施した。これらの検討会での議論や社会実験、交通シミュ レーションの結果等を踏まえ、基本計画を策定した。なお、検討状況や計画内容については、広報紙やシンポジウム等を通じて地域への周知を行っ た。 なお、実施した社会実験及び広域交通シミュレーションについては、検討会委員からの意見を踏まえ実施内容の見直しが生じたことから、年度内 の事業完了が困難となり、一部事業を令和8年度に繰り越して実施することとした。				

KPI			R5増加分	R6増加分	R7増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	計画期 間通期 の目標 達成	(参考) 事業開始前
① 商店街地区で行う試行実験(社会実験)の来 場者数	目標値		500	500	9,000	10,000	人	○	○	-
	実績値		1,500	7,500	19,000	28,000				
② 商店街地区で行う試行実験(社会実験)の回 数	目標値		1	1	4	6	回	○	○	-
	実績値		2	1	35	38				
③ 商店街地区の商店街組合員数	目標値		3	3	6	12	会員	×	×	224
	実績値		5	▲ 11	▲ 4	▲ 10				
④ 仙台市営地下鉄長町一丁目駅、長町駅及び 長町南駅並びにJR長町駅の乗車人数の増 加率	目標値		0	0.5	3.2	3.7	%			100
	実績値		6.3	2.7	※					

■ 効果検証 ※前年度の乗車人数について、公表時期がJRは9月頃、仙台市地下鉄は11月以降となっているため、現時点では把握できていないもの。

事業評価	KPI①・②は、社会実験を38日間実施したことにより、目標を大幅に達成した。KPI③については、商店街加盟店舗が複数閉店したため、目標未 達となった。 KPIの達成状況や課題等について、官民連携推進会議や商店街、エリアマネジメント団体などと意見交換を行い、基本計画の取組みに開業支援等 の強化を位置付けたもの。
今後の 方向性	今年度以降は、策定した基本計画に基づき、開業支援等の強化や街並み空間での社会実験等を進める。

13. 泉中央地区活性化事業【3年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和5～7年度	R7交付対象 事業費	総事業費 : 7,852,000円 交付決定額 : 3,926,000円	担当課	泉区 泉中央地区活性化推進室
事業概要	民間主体の協議会の立ち上げや泉6大学の学生を主体としたワーキンググループの開催等を通じて、地域の一体感創出を図り、泉区役所建替を契機とした泉中央地区の賑わい創出に向け、回遊・滞留の仕掛けづくりや将来ビジョン策定に取り組む。				
R7の 主な取組	・泉中央エリアの主要な活動団体を中心とするエリアマネジメント組織が設立された。 ・泉中央エリアの目指す将来像と、その実現に向けた取組を関係者間で共有するため、泉中央エリアまちづくりビジョンが策定された。 ・エリアマネジメント組織の設立を市民への周知を図るため、イベント等の機会を活用し、理解と共感を深めるための支援を行った。 ・泉中央エリアまちづくりミーティングを開催し、事業の進捗状況を市民にお知らせするとともに、アンケートなどの手法で参加者からまちづくりに関する意見を収集した。				

KPI		R5増加分	R6増加分	R7増加分	累計(増加分)	単位	R7目標 達成	計画期 間通期の目標 達成	(参考) 事業開始前
① 泉中央地区の主要な賑わい創出イベントの 来場者総数	目標値	7,600	8,360	9,196	25,156	人	○	○	76,000
	実績値	13,800	13,800	11,635	39,235				
② 地下鉄泉中央駅の乗降者数	目標値	225,184	231,939	238,898	696,021	人	○	○	7,506,148
	実績値	646,528	336,008	260,264	1,242,800				
③ 泉中央地区人口数	目標値	150	150	150	450	人	×	×	9,708
	実績値	160	▲ 92	▲ 66	2				
④ 区民広場、泉中央駅周辺(おへそひろば・パ デストリアンデッキ)、七北田公園において 実施された賑わい創出イベント数	目標値	5	5	5	15	件	○	○	107
	実績値	7	5	8	20				

■ 効果検証

事業評価	KPI①②④については、エリアマネジメント組織の設立やエリアビジョンの策定を通じて、関係団体間の情報共有・連携が促進されるとともに、泉中央エリアにおける取組みの周知やビジョンを踏まえた活動の展開が図られたことにより、目標を達成できたものと考えられる。一方、KPI③については、少子化や住み替え、駅前大型商業施設の閉店等の影響により目標達成には至らなかったものと推測される。しかしながら、各種取組を通じて、エリアの賑わい創出や活性化に向けた機運醸成につながったものと考えられる。
今後の 方向性	今後もエリアマネジメント組織を中心に多様な主体との連携を深め、エリアビジョンに基づく取組みを推進するとともに、回遊・滞留の仕掛けづくりを進めることで、泉中央エリアの更なる魅力向上と賑わい創出を図っていく。